

## 1年 保健(1学期末考査)

問題1、次の文の( )の中に適当な語句を入れなさい。

( ① ) 憲章は、1946年に「健康とは、身体的、( ② )、( ③ )に完全に良好な状態であり、たんに病気あるいは虚弱でないことではない」と定義しました。ここでは健康を「病気ではない状態」という( ④ )なとらえ方ではなく、身体的な健康はもちろん、( ② )な状態や( ③ )な状態を含めた上で、( ⑤ )にとらえています。

健康について、別の考え方もあります。たとえば、障害や慢性的な病気を抱えていても、人生の( ⑥ )をもち、やりがいのある( ⑦ )や役割をみつめて、いきいきとした生活を送っていれば十分健康だと考える人もいます。このように、1人ひとりが自分なりの( ⑥ )をもち、( ⑧ )や( ⑨ )をもった生活を送ることができる状態、すなわち( ⑩ )を重視した健康観が生まれています。WHOも1986年に「健康は生きることの目的ではなく、より良く生きるための資源である」と宣言しています。

問題2 次の健康の成り立ちに関する文の( )にあてはまる語句を入れなさい。

主体要因には、年齢、性別、遺伝などの人間の( ① )としての側面と、運動、食事、喫煙などの( ② )があります。また環境要因には、大気、水、土壌などの( ③ )環境があります。さらに所得、職場、人間関係のような経済的・( ④ )環境、保健所や病院などの保健・医療サービスを含めた( ⑤ )環境があります。主体と環境の要因は互いに影響しあいながら私たちの健康を成り立たせています

問題3 次の文の( )にあてはまる語句を書きなさい。

わが国における平均寿命をみると、1900年代初期までは低い水準にとどまていましたが、その後急速にのび続け、2020年には、男性( ①.64 )年、女性( ②.74 )年と世界最高水準となっています。こうした平均寿命ののびは、かつては( ③ )死亡率が大幅に改善されたために、近年では( ④ )の死亡率が改善されたために達成されました。

健康水準が向上してきた背景には、( ⑤ )の発展があります。( ⑥ )が豊かになることで、人々の( ⑦ )状態や( ⑧ )状態が改善されました。それにより、病気に対する抵抗力が増したり、生活が( ⑧ )的になったりして、( ⑨ )による死亡率が大幅に低下しました。また( ⑩ )の発展にもなう保健・医療サービスの充実も、死亡率全体の低下に貢献しています。

問題4 次の文の( )にあてはまる語句を書きなさい。

乳児死亡率とは、ある年に生まれた( ① )人の赤ちゃんに対する、生後( ② )年未満に死亡した赤ちゃんの数の割合。わが国の乳児死亡率は2019年では1.9であり世界有数の低さとなっている。低い乳児死亡率は、その国や( ③ )が( ④ )などにより、特別な支援を必要とする( ⑤ )や乳児の健康を守る力を持っていることを意味する。

問題5 次の文の( )にあてはまる語句を書きなさい。

生活習慣病の予防には、まず( ① )な生活習慣を続けることによって、( ② )のリスクを減らし、ていくことが重要です。このように( ② )を未然に防ぎ、健康増進に努めることを( ③ )といいます。生活習慣は比較的( ④ )時期に確立し、生涯継続していく場合が多いことから、高校生の時期から運動やスポーツを( ⑤ )におこなうなど、( ① )な生活習慣を確立しておくことに意義があります。

次に大切なのは、病気を早期に( ⑥ )し、早期に( ⑦ )する( ⑧ )です。定期的な( ⑨ )によって、早期( ⑥ )・早期( ⑦ )をすれば、( ⑩ )にならなかつたり、健康を取り戻したりすることができます。

問題6 次の文の( )にあてはまる語句を書きなさい。

生活習慣病には、心臓病、( ① )、糖尿病などがあります。そのうち、心臓病、脳卒中脂質異常症、糖尿病、高血圧症などは、( ② )や食習慣と関係があります。また、( ③ )は食習慣やブラッシング、( ④ )などと関係があります。

生活習慣病は、中高年に多くみられます。しかし、病気とはいえなくても、生活習慣病につながる体のなかの変化は( ⑤ )ころから始まっています。

問題7 次の文の( )にあてはまる語句を書きなさい。

( ① )、節酒、( ② )、適度な( ③ )、適切な体重管理という5つの健康的な( ④ )によって、がんになるリスクを軽減できることがわかっています。また、がんの種類によって、がんになるリスクを上げる要因や下げる要因が異なります。細菌・( ⑤ )の感染が原因のがんについては、それらを( ⑥ )したり、感染を( ⑦ )したりすることによって、がんになるリスクが下がります。このように、がんを予防するには、がんのリスク要因を減らしたり、リスクを軽減する要因を増やしたりする( ⑧ )が重要です。

がんの原因はわかっていないものも多いことから、がんを早期に発見し、早期に治療を開始する( ⑨ )も大切です。がんになっても、早期発見によって治ることが多くなっています。がんの早期発見には定期的にがん( ⑩ )を受けることが重要です。

問題8 次の文の( )にあてはまる語句を書きなさい。

がんのおもな治療法には、手術療法、( ① )療法(抗がん剤など)、( ② )療法があります。これらの治療法をがんの( ③ )や症状などにあわせて、単独あるいは複数を( ④ )おこなう( ⑤ )が推奨されています。



問題9 次の「おもながんの種類とリスク要因・リスクを軽減する要因」の表を見て下の問いに答えなさい。

種類	症状など	リスク要因/リスクを軽減する要因
( ① ) がん	気管支や肺の細胞が何らかの原因でがん化したもの。日本人のがんのなかで、死亡数をもっとも多く、とくに男性に多い。治療が難しいがんの1つ。	[ A ], 喫煙 [ A ], アスベスト
( ② ) がん	( ② ) (結腸・直腸・肛門) に発生するがん。日本人は、S状結腸と直腸にがんがしやすい。早期の自覚症状はほとんどなく、進行すると、血便、下痢と便秘の繰り返し、便が残る感じ、体重減少などが起こる。	飲酒、[ B ] / 運動
( ③ ) がん	( ③ ) の壁の内側をおおう粘膜の細胞ががん細胞となったもので、ピロリ菌の感染が発病にかかわる。男性に多く、50歳ころから増加する。( ③ ) の壁を厚くさせながら広がっていくタイプ(スキルス [ ③ ] がん)もある。	[ A ], ピロリ菌、食塩
すい臓がん	約9割ですい臓の細胞にがんができる。初期には症状が出にくく、進行すると、腹痛や背中への痛み、食欲不振、腹部膨満感(すぐにお腹がいっぱいになる)、黄疸などがみられる。	[ A ], 糖尿病
肝臓がん	肝炎ウイルスへの感染がおもな原因で、肝臓の細胞ががん化したもの。男性に多い傾向があり、50歳代から増加し、80歳前後でピークとなる。	[ A ], 飲酒 [ B ], 肝炎ウイルス、糖尿病/コーヒー
( ④ ) がん	女性がかかるがんのなかでもっとも多い。多くは( ④ ) 管(母乳を運ぶ管)から発生し、「( ④ ) 管がん」と呼ばれる。自覚症状として、( ④ ) 房のしこり、エクボのような皮膚のひきつれ、リンパ節の腫れなどがある。	[ B ]
( ⑤ ) がん	ヒトパピローマウイルスへの感染が原因で、( ⑤ ) の入口にできる( ⑤ ) 頸がんと女性ホルモンの刺激などが原因で、( ⑤ ) の奥側にできる( ⑤ ) 体がんがある。月経中でないときの出血などがあるときには、早期に受診する。	[ A ], ヒトパピローマウイルス
( ⑥ )	発病原因の多くは不明で、小児がんの約4割を占める血液のがん。血球ががん化した細胞( [ ⑥ ] 細胞) となって無制限に増殖することで発病する。貧血、発熱、骨痛、頭痛、吐き気などの症状がある。	[ A ]

[問1] ①～⑥にあてはまる語句を書きなさい。

[問2] A、Bに当てはまる語句を書きなさい

問題10 次の文の( )にあてはまる語句を書きなさい。

( ① ) な細胞がかたまりとなり、まわりに広がりやすくなる。がん細胞がまわりの組織や( ② ) にひろがっていくことを( ③ ) という。また、リンパ管や血管を通して、がん細胞が発生した場所から離れ、( ④ ) や他の臓器に移動して定着し、そこでまた増殖することを( ⑤ ) という。

問題11 次の文の( )にあてはまる語句を書きなさい。

わが国では、がん対策基本法にもとづくがん対策推進( ① )によって、社会的対策が総合的かつ計画的に進められています。たとえば、がんの予防方法の普及啓発だけではなく、がん( ② ) などを利用した早期発見・早期治療の取り組み、がん診療を行うがん診療連携拠点病院の整備、( ③ ) 情報を活用したがん( ④ ) 医療の推進などです。また、小児・AYA世代の患者に対応した小児がん拠点病院の整備など、患者個人に( ⑤ ) 化されたがん医療の実現もめざされています。

(小児とは、一般的に( ⑥ ) 歳未満を指し、AYA世代は、( ⑥ ) 歳から( ⑦ ) 歳くらいの思春期・若年成人を指す。)

問題12 次の文の( )にあてはまる語句を書きなさい。

がんに関してはさまざまな情報があふれており、なかには( ① ) に正しいとはいえないものもありますが、そのなかで私たちは、( ② ) の高い情報を活用する必要があります。とくに「がん( ③ )」では、正確かつわかりやすいがんに関する情報の提供がおこなわれています。

また、拠点病院にはがん( ④ ) が整備され、( ⑤ ) など、誰もが利用することができます。

問題13 次の文の( )にあてはまる語句を書きなさい。

・生体には自分(自己)と自分以外のもの(非自己)を鋭敏に識別する働きがある。非自己の物質や生物が体内に入ると( ① ) と認識し、それから身を守るため排除しようとする複数の働きが起こる。これが( ② ) という働きである。

・小児がんとは、小児がかかる様々ながんの( ③ )、小児がんには白血病、脳しゅよう神経芽腫、腎芽腫、( ④ ) などがある。血液のがんである白血病やリンパ腫を除いて( ⑤ ) にはほとんどみられない。一方、胃がんや( ⑥ ) などは、小児にはみられない。小児がんは( ⑦ ) にがんの発生原因があると考えられるものは少ない。

・( ⑧ ) とは、医療機関で医師の診療を受けているなかで、主治医などの診断、治療法の選択などに納得できない場合や、確かめたい場合などに、別の医療機関や医師などに意見を求めること。特に( ⑨ ) にわたる治療や重大な手術を受ける場合には、できるだけ複数の医師の診断や意見を聞くことが大切である。ただし、保険診療の対象とはならないため( ⑩ ) となる。

・( ⑪ ) とは医療関係従事者の十分な説明のもとに患者が( ⑫ ) することである。これは医療( ⑬ ) から派生した概念であり、患者の( ⑭ ) の1つともされる。説明の内容には、おこなおうとしている治療法だけでなく、( ⑮ )、成功率、費用、治療後の見通し、他に取りえる治療法などが含まれる。